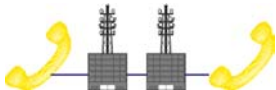


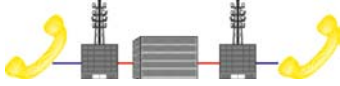
IP電話のIPは、Internet Protocolの頭文字。インターネット通信電話という意味

1. IP電話とは、

今までの電話は、電話機と電話機の間をNTTが保有する回線をつないでいました。つまり端から端までNTTです。



このNTT-NTT間を別の会社が担当するのがマイラインです。



電力会社や別の通信会社が『NTTより安い費用で情報を運べますよ』といて加入を勧めています。ここでも電話機はNTTにつながっています。



IP電話はインターネット経由で通信されますので、NTTは登場しなくなりました。しかし相手側が普通電話の場合は、やはりNTT経由で接続されます。

2. IP電話のメリットは、

ずばり通話料です。

インターネットの定額常時接続な



ら通話料は必要ありません。相手側もIP電話でインターネット接続している場合、何時間通話しても無料

です。相手側が別のプロバイダーに加入している場合、プロバイダー間の接続に手数料が必要ですが、NTT経由に比べてずっと割安です。

3. IP電話のデメリットは、

通信品質と安定性です。

NTT経由の電話は、通信品質も安定性もNTTが保証します。1対1の接続ですので、非常に高い品質と安定性が保証されています。しかし、IP電話は複数のプロバイダーを経由して接続されますので、責任の所在が明確ではありません。

電話は停電しても使えます。それは、NTTが電話機を動かす電気を電話線を通して流しているからです。しかし、IP電話はコンセントからの電力が必要なので使えなくなります。また、現在多くのIP電話は3桁の救急番号(110、119)に接続できません。

4. IP電話の将来性は、

デメリットも多いIP電話ですが、将来全ての電話はIP電話になるだろうと言われていています。デメリットは全て克服できる予定だからです。携帯電話の音質が悪くとも十分会話ができるように、人間の耳はとても優秀です。多少の雑音も、切れ切れの音も、聞き分けることが可能です。

NTTは通常電話向けの設備投資を今後中止すると発表しました。NTTでさえIP電話が本命だと思っています。

競争原理が働けば通話品質も安定性も増すことでしょう。

一部のプロバイダーではNTT回線を使わないで緊急番号に接続できる

ようにしました。これは、総務省も認めた品質を持っています。

5. IP電話に備えるには、

全ての部屋で電話が使えるように



電話の差込口が付いている場合でもIP電話を全ての部屋で使えることにはなりません。配線の多くが、送り配線と呼ばれる接続方法だからです。これは、複数の電話機をつないでもどこか1箇所では使えない接続です。

インターネットをADSLで使う場合、IP電話が使えるのは1箇所だけです。

インフォソケットのホームネットワークで配置する電話口は、スター配線で配置されます。情報ボックスと呼ばれる情報配電盤から各部屋が直接結ばれています。こうすることによって、全ての部屋でIP電話が使えるようになりますし、将来電話口をインターネット接続口に変更することも可能です。

インフォソケットは、ホームネットワークのスペシャリストです。